

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100649		
法人名	株式会社 リバソン		
事業所名(ユニット名)	グループホーム だんらん		
所在地	和歌山市小瀬田80番地の1		
自己評価作成日	平成25年7月29日	評価結果市町村受理日	平成25年9月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成25年8月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

だんらんは、運営理念である「その人らしい普通の生活を愛する地域で」のように地域の方との関わりを大切に支援させて頂いています。車通りの少ない静かな田園地帯で安心して散歩などして頂けます。歌のレクリエーション、個々にあった趣味(読書、工作、会話、手芸、園芸等)共に行っています。人を愛する事、人に対しての思いやりを大切に、一緒に悩み、考え、笑いあり、涙あり、入居者様と一緒に生活していく事を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは自然に恵まれた里山的な場所に立地しており、明るい空気の中でゆったりと日々を過ごせる環境にある。利用者の中には介護の困難な人もおられるが、職員は利用者に寄り添って見守り支援するという真摯な態度で接している。家族の多くが希望する協力医療機関の医師が定期的に往診するなど、利用者はもとより家族も健康・医療面で安心できる体制がとられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は見えやすい所に掲示し、管理者・職員は理念を共有し、日々の方針として業務に取り組み、地域との交流に努めています。また、職員で明記し朝礼で確認しています。	ホームの理念を「その人らしい普通の暮らしを愛する地域で」とし、玄関を入った壁面に掲げ、管理者・職員は朝礼で確認している。また、何か問題等があったときには理念に立ち返り、理念を念頭において日々の業務や地域の人々との交流に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方よりお米の購入や、季節毎の新鮮な野菜など頂いています。	ホームは小さな集落と田園地帯のなかに立地しており、地域の人々から米を買ったり野菜をもらったりして交流している。また地域の人々が気軽に立ち寄ってくれることもある。併設施設を含めて行う夏祭りには、ボランティアの援助もあり、模擬店を出したり踊りもあり、地域の人々や子どもも参加し賑やかに交流し楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を開催し、近隣の方々との親睦を深め、介護保険や認知症高齢者について、話し合いを行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者様状況・行事・活動報告・研修報告・感染対策・安全対策等の報告を行い、意見を頂いています。	運営推進会議は2か月に一度開催しており、ホーム側から利用者の入居状況、救急車の通報・事故・苦情等の状況、行事の実施内容等について報告し、参加者から質疑や意見を出してもらい、それらをホームのサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の方の情報交換や、介護保険について不明な事は聞くようにしています。	市町村の担当者には介護保険についての疑義を質問などして関係を密にするよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修に参加しています。玄関は施錠せず自由に屋外に出る事ができます。	管理者・職員は身体拘束についての研修会に参加し、身体拘束のないケアに努めており、止むを得ず行うときも家族に説明して同意の上で行っている。玄関は日中は鍵をかけておらず、利用者が外に出る気配を察すれば職員が付いて行き一緒に帰って来るなどの対応を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加し、職員全員に周知しています。安全対策委員会が虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修に参加しています。現在は必要とされている方はいらっしゃいませんが、必要に応じて支援させていただきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用料金・重度化に伴うリスク・個人情報・秘密保持等、細かく説明しています。不安や疑問には丁寧に説明し、納得して頂くようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会等で意見や要望が話せる機会作り・意見箱の設置を行っております。入居者様には、普段の生活関係から、何でも話せる雰囲気作りを行っています。	家族会や訪問時に家族から意見や要望を聞いており、玄関に意見箱も置いている。家族からの外出についての要望を受けバス旅行を行うなど、出来るだけ本人・家族の要望等に添うよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者・管理者は職員の意見やアイデアを聞く機会を設け、職員のスキルアップに繋げています。	職員の提案などを聞く機会を設けている。また、毎月の代表者・管理者の会議の議題を職員の意見で決めるなど、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は自己評価を行い、職員の努力や能力を把握し、働きやすい環境作りを行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者やスタッフの個々のケアの能力や力量を把握しています。内外の研修には参加しておりフィードバックしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH勉強会・福祉関係の勉強会に参加しサービスの向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接でアセスメントを行い、入居者様の希望等をお聞きし、内容を職員間で共有し、入居後の不安の軽減に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設内や近所を見学して頂き、家族様の不安や疑問・困っている事等をお伺いし、安心してご利用いただけるよう、努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様家族様の思いや状態を把握するよう、努めています。必要とするサービスを見定め提供で出来るように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りや洗濯物を干す・たたむなど、出来る事は職員と共にしています。個々、入居者様にとって出来る事への支援は行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設新聞を発行しています。体調の変化などはその都度お伝えし、一緒に支援を行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からのお友達がよく見えになっておられます。ご自宅で育てていたお花などを管理してくれ、差し入れに来て下さいます。	入居前から付き合いのある友人がよく訪ねて来られたり、入居前の家庭で作っていた花を管理してくれていて来訪時に持参してくれることもある等、これまでの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う仲間と同席にしたり、気の合わない入居者様の間に職員が座るなどし、入居者様同士の関係が円滑に進むように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調崩され入院にて退所された方などの様子を伺い、その場に応じて相談に応じさせていただいています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り入居者様の希望に添うようにしています。困難な時は本人に寄り添い、本人様に合わせながら支援を行っています。	職員は日ごろ利用者に接することにより、一人ひとりの思いや暮らし方の希望や意向を把握するようにしている。困難な場合は職員間で話し合い本人の視点に立って意向等を把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時、過去の事・趣味・好きな事などお聞きするようにしています。職員は入居者様の過去を把握し日頃の介護に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごした事・バイタル測定等を記録に記入し、職員全員で把握しています。日勤・夜勤帯共に密な申し送りをを行い、現状把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様・家族様の意見を踏まえ、日頃の様子も加えて職員全体でカンファレンスを行い介護計画に反映しています。	本人がより良く暮らすための課題やケアのあり方について、利用者・家族の意向を踏まえ日ごろ接している職員全体で意見を出し合って現状に即した介護計画を作成している。介護計画は期間により見直すと共に利用者の状況等に変化があれば職員全体で利用者の日々の記録等によりカンファレンスを行いその都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録がわかるように介護記録・申し送りノートに記録しカンファレンスを行い、介護計画を見直し、サービスに反映しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様・家族様のニーズ、また、その都度生まれるニーズ合わせて対応できるように話し合いを行い、柔軟に対応するように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物に出かけたり、訪問理美容の利用・来訪してくれているパン屋・乳製品など入居者様に選んで頂き購入しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は入居者様・家族様が希望され行かれています。家族様が対応出来ない時は、職員が付き添っています。月2回往診医が来て下さり、入居者様の個々の状態を伝え指示を仰いでます。	原則として本人・家族の希望する医療機関には家族が連れて行くことになっているが、家族が対応できないときは職員が付添って受診している。また月2回利用者の大部分が希望するホームのかかりつけ医が来診し、利用者毎に症状を説明し診察してもらっている。歯科・眼科についても月1回専門医に来診してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が週1回健康管理を行っています。緊急時に対応しています。必要に応じて他医療機関への通院の支援をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、病院の関係者に日頃の状況を伝えていきます。入院中はお見舞いに行き、先生や看護師・家族様と相談しながら早期退院に向けて話し合っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、重度化した時や終末期の看取りに関して説明を行っています。重度化した時は主治医・家族・様職員で十分話し合い、方針を決めています。	入居契約時、本人・家族に重度化したときや終末期にどうするかについて説明を行っている。重度化したときは、主治医・家族・職員が話し合いホームでの対応方針を決めるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の普通救命講習に参加し知識を身につけています。施設内研修も行っていきます。事故発生マニュアル、救急マニュアルを作成しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施しています。危機管理の研修に参加しています。又食料品の備蓄を行い、水害に備え避難場所等、準備を整えています。	災害に備え利用者の避難訓練や消火訓練を行っており、スプリンクラーの設置や備蓄もなされている。なお避難訓練への近隣の人々の参加は9月の訓練の時に予定されている。また水害に備え避難場所の検討も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重しプライバシーに配慮しています。さりげない声かけを心掛けています。	一人ひとりの人格を尊重し、呼び方にも注意し、特に排泄介助時には誇りやプライバシーを損なうような言動がないように心掛けている。個人情報も漏れないように事務所の書庫などに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の希望やしたい事を聞き出し、出来る事は実行しています。表現出来ない入居者様に関して表情や態度を確認し、出来る限り自己決定して頂くようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の希望を尊重し、一人ひとりのペースに合わせ、安全に考慮しながらその人らしい生活が送れるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の好みに合わせています。自分で選んで頂けるような声かけをしています。毛染めやパーマ等を希望される方にはご家族様に協力をして頂き、美容室へ外出されています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の能力に合わせ、職員と共に調理を行っています。一緒に食事した後片付けも一緒に行っています。	食事が楽しくなるように多様な食材の使用や盛り付け、味付けに工夫しており、施設の菜園で作った季節の野菜を食べることもある。利用者で可能な人は豆のすじ取りやフルーツジュースづくり、食後のテーブル拭きなど後片付けを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の内容が偏らないようにしています。食事量や水分量を毎日記録に残しています。水分量が少ない方は、家族様に好みの飲み物を聞き、必要水分量を摂取して頂くようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っています。必要に応じて歯科医の往診を受けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレ誘導を行っています。排泄パターンを把握するようにしています。また、表情や行動を理解する事でトイレでの排泄を行えるよう、支援しています。	利用者に定期的にトイレ誘導を行い、またそれぞれの利用者の排泄のパターンを把握し、利用者の表情やしぐさで便意を察し、出来るだけトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食べ物の工夫、水分・乳製品・牛乳を飲んで頂き、定期的排便に努めています。また、必要に応じて主治医に相談させて頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	定期的に入浴を行っています。必要に応じて、好みのタイミングでの入浴も行っています。	入浴は毎日午後に行われており、利用者は週2・3回入浴しており職員が支援している。入浴を拒否する人には午前中でも入ってもらったり相性のよい介助者が付くなどの配慮をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の睡眠パターンを把握していません。寝付けない方には、温かいお茶を飲んで頂いたり、ゆっくりとくつろいで頂き入眠への支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日、服薬しているお薬は理解できていません。体調不良でお薬が変わる時は、申し送りノートに記入し、職員全体で把握するようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様が日々の中で調理の補助や洗濯などの役割を持ち、張り合いを持って頂けるよう努めています。折り紙や家庭菜園の水やり・収穫なども、楽しんで行って頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望により散歩・花見など、気の合う仲間、または職員と楽しめるように支援しています。	気候のよい日は園庭の周りや近所を散歩して外気に触れる機会をつくっている。また、近辺の神社に花見に行ったり、スーパーへ行って買い物を楽しむこともある。なお、家族の希望もあり神戸方面へバス旅行にも行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在自己管理されている方はいらっしゃいませんが、ご希望があれば、自己管理して頂けるよう支援します。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様が希望すれば電話はかけられるように支援しています。家族様からの電話は職員が取次ぎ、お話して頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	静かな田園地域で、車の通りも少なく安全で静かな環境です。花を飾るなど、季節を感じてもらえるような空間づくりに努めています。	共同の居間食堂にはソファを置いてくつろげるようにし、室内の明るさや職員の声のトーンも適当である。ぬいぐるみや観葉植物を置き、壁面には折り紙で作った花火の貼り絵を飾ったりして季節感を出すようにしており、利用者にとって居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方と一緒に過ごせるスペースが何力所かあります。又一人で過ごして頂けるスペースもあります。隣のユニットの友達といつでも行き来出来る環境になっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや布団、入居前から使っていた思い出の品などを自室に置いて頂いています。家族様の写真などを飾って頂いています。	居室は利用者にもよるが、自宅で使っていた馴染みのタンスや布団を持ち込み、ぬいぐるみや鉢植えを置いたり、壁面には色紙で作った貼り絵や家族の写真などを飾ったりして、自分の部屋として居心地よく暮らせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札、他の所は入居者様目線に合わせてわかりやすく明記されています。廊下はバリアフリーになっており全体的に安全に過ごして頂いています。		